

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 217

2010年

11 ~ 12月号

行 事 案 内

11月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 11月14日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 秋も深まり、手賀沼に冬鳥達が徐々に出揃う時期です。沼面にはカモ類やカンムリカイツブリなど、そして上空には猛禽類、葦原には小鳥たちが。どれだけの冬鳥たちが手賀沼にやって来ているのでしょうか、楽しみですね。
解 散 正午
担 当 浅井

12月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 12月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 今年最後の定例探鳥会です。手賀沼周辺も例年通り、冬鳥達で賑わっていることと思います。上空、湖面、そして田圃と注意深く観察しましょう。
解 散 正午
担 当 北原

福 島 潟 探 鳥 会

期 日 11月27日(土) 28日(日)
案 内 日本最大のオオヒシクイの渡来地とされる新潟県福島潟(豊栄とよさか=新潟駅から約15km)で、ガン・カモ・ハクチョウなど湿地帯の水鳥や水辺・葦原の鳥達の大群を中心に楽しむと共に、朝日池(ハクガンほか期待) 佐潟、瓢湖などでの探鳥を予定しています。福島潟では昨年このシーズンに、オオヒシクイ、マガン、シジウカラガン(小型在来亜種)、ハクガン、サカツラガンなどガン5種類、コハクチョウ、オオハクチョウ、それにオジロワシ・タゲリ(多数)などが観察されており、今年も期待しましょう。帰雁の大編隊飛行も見られるかも。
交 通 上野駅 新潟駅の往復は上越新幹線利用、このあと、福島潟(豊栄) 朝日池、佐潟、瓢湖などで探鳥します(順不同)。新潟県内の交通移動手段として、鉄道+タクシー(場合によっては半日~一日だけレンタカー)を予定しています。
費 用 概算30,000~35,000円。
持 物 観察用具、雨具防寒防風具、洗面具、着替え類、弁当(現地にて昼食予定、途中弁当購入も可)
申 込 田中功まで

Fax : 04 - 7182 - 4860

詳細案内・切符購入などについては、
申し込みいただいた方に、別途後日、
連絡いたします。

担 当 間野、田中、松下、金子

酒 沼 探 鳥 会

期 日 12月26日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 年末恒例の探鳥会です。酒沼周辺から霞ヶ浦へと探鳥します。水鳥は勿論のこと、猛禽類から小鳥に至るまで、幅広い種類の鳥が観察できます。昨年は55種の鳥を認めました。又、酒沼名産のしじみもお土産に欠かせなくなりました。

交 通 自家用車分乗です。一人2,000円を運転者にお渡し下さい。申し込みの際、自家用車提供可能な方はその旨をご連絡下さい。

持 物 観察用具、弁当・飲物(途中購入可)、雨具

申 込 北原建郎まで
Tel : 04 - 7183 - 4683

担 当 田丸、北原

小見川・神之池・江戸崎探鳥会

期 日 1月3日(月) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 毎年恒例の新年探鳥会です。今までは波崎・北浦方面に出かけていましたが、今回は小見川・神之池は従来通りで、波崎・北浦を取りやめ、替わって江戸崎に足を伸ばします。小見川の葎原ではワシ・タカ、神之池ではカモ類をはじめとする水鳥が、特にミコアイサは毎年多く見られます。江戸崎は関東唯一のオオヒシクイの飛来地で毎年60~70羽が来ています。冬鳥の代表であるガン・

カモやワシ・タカなど多くの鳥たちと出会い、2011年の探鳥をスタートしましょう。

交 通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡し下さい。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨をご連絡ください。

持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可)

申 込 桑森亮まで
Tel/Fax : 04 - 7182 - 3149

担 当 松田、田丸、桑森

芋煮会

今年の行事の締めくくりの芋煮会です。五本松公園キャンプ場へお集まり下さい。全員で担当しますので多数の参加をお願い致します。ご家族の方の参加も大歓迎です。

期 日 12月19日(日) 雨天中止
集 合 現地集合 午前10時
会 場 五本松公園キャンプ場
参加費 大人1,000円、中学生以下800円
持 参 汁椀、箸、おにぎりなど。酒類持込歓迎。

担 当 全幹事
申 込 北原建郎まで。
12月12日の定例探鳥会でも受け付けます。
申込期限 12月13日
Tel : 04 - 7183 - 4683

11月幹事会案内

日 時	11月14日(日) 13:30~
場 所	アビスタ2F 第4学習室
議 題	1.芋煮会実施体制、作業分担 2.会報218号掲載記事 3.報告事項(JBFなど) 4.その他(その他議題あれば事務局へ)

行 事 報 告

8 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2010.8.8 9:00~12:00

晴れ 風：中風 気温 34

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、トビ、サシバ、オオバン、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、セッカ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 計 22 種
番外 カワラバト

<探鳥班> 野口隆也、大久保陸夫、佐々木隆、田丸喜昭、北原建郎、間野吉幸、常盤孝義、宮下三禮、猪爪敏夫、西城猛、西嶋昭生、桑森亮、諏訪哲夫、小林孝夫、野口紀子
(担当)松田幸保 参加者 16 名

7月に引き続きヨシゴイを求めて千間橋まで足を伸ばした。酷暑の影響か、認めた鳥・参加者数ともにワースト記録ではないだろうか？

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時：2010.8.8 9:00~11:30

晴 南東の風：弱 気温 33

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	1	3	4
カウ	17	32	49
ダイサギ	4	4	8
コサギ	3	2	5
アサギ	1	3	4
コブハクチョウ	13	4	17
カルガモ	1	0	1
オオバン	0	1	1
合計	40	49	89

9 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2010.9.12 9:00~11:40

曇り、風：中風、気温 29

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、トビ、オオタカ、サシバ、チョウゲンボウ、アジサシ、キジバト、カワセミ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 27 種

<探鳥班> 肥後邦彦、田丸喜昭、浅井久、大久保陸夫、栗田励、山口キイ、桑森亮、間野吉幸、田中悟、六角昭男、天野正臣、天野睦子、古出洋子、大矢篤、松本葉子、松本勝英、野口隆也、中野久夫、松田幸保、小玉文夫、北原建郎、猪爪敏夫、宮下三禮、常盤孝義、西嶋昭生、山中浩一、小坂忠久、榎本右、石渡成紀、小林博之、小林美智子、小林孝夫、野口紀子、野口紀恵 (担当) 佐々木隆
参加者 35 名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時：2010.9.12 9:00~12:30

晴・曇り 南東の風：強・中 気温 29

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	5	3	8
カウ	17	100	117
アマサギ	0	1	1
ダイサギ	13	16	29
チュウサギ	5	74	79
コサギ	2	12	14
アサギ	8	5	13
コブハクチョウ	16	19	35
カルガモ	20	72	92
オオバン	1	0	1
ヒヨドリ	0	3	3
合計	87	305	392

稲敷方面シギチ探鳥会

8月29日(土)

猛暑の中で、ツバメチドリ！

松本勝英

朝から“猛暑予報”のその日も、やはり記録的炎天続きの当日になってしまいました。6日前の下見の日も、カラカラの休耕田、稲刈り直後の水田には、まったく水が無く、5箇所探鳥したうち、わずかに冠水している2箇所以外はチュウサギ、ダイサギしか見られず、期待は薄くなるばかりでした。

が、最初に行った源清田で、シギチは無理でしたが、刈り込みの進んだ「元」水田に20超羽のアマサギの一群がおり何か吉兆を暗示してくれました。

2番目の佐原組新田、手賀組新田は、一層稲刈りコンバインが活動中で、コンバインの後を追って懸命にチュウサギが採餌していたり、ダイサギ、コサギの混群も見られた。

3番目の八千石は、下見時同様、農道にバーダーが群れており、一般道際に駐車そこそこに早速近づいて行くと畦道の草陰にコチドリの列、畦道の上には中型のシギもいる。いろいろ混ざっていることは分かるが、何と何かはど素人の私にはさっぱり分からない。「ソリハシ？」、「アオアシ！」、「タカブみたい！」、「脚の色が・・・」、「斑がもっと粗いはず」などなど付近で会話が飛び交う。バーダーの会話を頼りにレンズをのぞいてはうなづくばかり。ハヤブサのアタックがありツバメチドリはまだ戻って来ていないとのことではちょっと落胆。強烈な日差しにもかかわらず、予定を大きく延長し約1時間、汗だくになりながら持参のスペシャルドリンクをしながら、先輩諸氏のタフネスぶりと博学なことに改めて感心した。

近くの図書館敷地で、やっと昼食になり、着替えもすると体調は一気に回復した。午前の予定を午後に繰り延べした4番目の六角では、どうにか湿田の模様をしている程度の休耕田で、最初、コチドリが至近距離で目に入った。幸いと云うか他のバーダーがいなかったの、注視していると「ツバメだ！」と

の小声。指差す方向のスコープをのぞかせてもらおうと、いた！。ツバメチドリだ。ツバチだ！！（生意気にも略してごめんなさい）警戒してなかなか動かないのでじっくり対面できた。地元の方の好意か、カモ風のデコイが3、4個置いてあり、季節はずれでも効果があることが分かった。

現地最後の探鳥地、西の洲へ向かう。霞ヶ浦沿いの広い湿地を控えた田園の地は、開拓なのか、わずかのハス田を残し「工事現場」化されていて、無機質なガードパイプ、工事機材が並び、沿道には葛が繁茂し視界を遮っていて、かつての名探鳥地の面影がない。数羽のチュウサギとトビに慰められながら、早々に引き上げた。

帰路の予定にしてあった印西の千間橋に、ヨシゴイウォッチングに向かった。残念ながらヨシゴイからは嫌われてしまったがゴイサギ、カイツブリ、カワセミの本日初顔に会えた。まだまだ日差しが強い時間でしたが、新米担当幹事としてホッとしたところで解散になった。ルート策定、諸注意などご助言戴いた先輩皆さんに厚く御礼申し上げます。

【幹事報告】

晴れ、気温 32（8:00~15:00）

<観察地>茨城県稲敷市方面の源青田、佐原組新田、手賀組新田、六角、八千石、西の洲、我孫子市千間橋付近

<参加者>浅野利幸、間野吉幸、井上正、吉田隆行、北原建郎、大久保陸夫、桑森亮、猪爪敏夫（担当幹事）染谷迪夫、松本勝英
参加者 10名

<認めた鳥>カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、トビ、ハヤブサ、オオバン、コチドリ、シロチドリ、ムナグロ、トウネン、エリマキシギ、オオハシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、イソシギ、ソリハシシギ、タシギ、ツバメチドリ、キジバト、カワセミ、ツバメ、ハクセキレイ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
計 36 種 番外 アヒル、カワラバト

白樺峠タカの渡り探鳥会

9月18日(土)、19日(日)

川越 久枝

早朝、目覚しの助けでやっと起き、半分しか目覚めていない頭でバスに向かうと皆さんは、はっきりと目覚め、喜々とした顔ばかり、6時10分バスは出発、三連休で高速道路は早くも渋滞、楽しくおしゃべりをしている間にスムーズに走り出す。総勢19名、うれしいことに青春真っ只中の学生2名、平均年齢がググッと下がり皆それぞれに昔の思い噛みしめていたことでしょう。高速で思いの外時間をとられてしまい昼食は、コンビニのお弁当を車中で頂き、お昼過ぎて白樺峠の駐車場へ、130%以上の満車、スーパーマーケットの大バーゲンセールのような混みよう。難関の峠の坂がこれまた至難のわざ、フウフウハアハアと息も絶々、下山してくる人もいっぱい。どうですかと尋ねると、あまり芳しくない返事。まっ！せっかくだからと頂上をめざす。登りきった時にはもう汗あせアセ、しかし山は美しい。暫らく眺めて明日に期待して、ともあれ温泉々々。翌朝、5時起きで朝探、まだ川面もはっきりしない中、カワガラスが1羽は石の上に、もう1羽は川の中で、朝食に余念がない。昨夜と今朝、私達は川魚が主役の食事をおいしく頂き、お弁当を持って再び峠をめざす。ああ、又あの急坂、しかし登らなければワシタカに逢えない。そう思い、一心にフウフウハアハア頂上をめざしました。もうすでに三脚が雑壇におぎょうぎよく並んでいる。びっくり！桑森さんがすでに特別席を用意してくださって、とてもうれしく思いました。山々を眺めていると、ポツンとゴマ粒が現れてみるみるうちに、あちこちから集まり、何とも優雅に旋回を始め王者の勇姿を見せてくれる。とにかく素人の私は、その素晴らしさを形容しがたく、ただ、ただ、オーオ、ワーアとしか声が出てこない。そのつど三脚の上のマシーンが、シャシャシャシャと言うかチャチャチャアアと言うか、もうすごい一言。ハチクマもサシバも見分けのつかない私は、周りの方の説明にアア

とかヘーとか言いながらも区別はやはり難しい。でもあの勇姿が旋回する様は頑張っで登って来た人だけの感動ですね。興奮のさめやらぬうちに、帰りの時間にせかさされ駐車場へ。高速に乗ると渋滞、事故があったとのこと。ドライバーさんの機転で北関東道に入り、何とか無事に予定どおり帰りました。皆様、ありがとうございました。

ワシタカの勇姿雄々しく旋回す

松下勝子

【幹事報告】

18日(土)、19日(日)の両日にわたり、「白樺峠タカの渡り探鳥会」に行ってきました。参加者19名で、往路は三連休の観光客で渋滞し、復路も事故渋滞に巻き込まれ、移動は長時間になりましたが、両日とも好天に恵まれ楽しい探鳥会になりました。

19日の午前中には上昇気流が発生し、30羽余のタカ柱が見られ、近くにもタカ柱ができたりで、タカが気流に乗って流れていきました。公式記録によると、この日は500羽余りのタカが出たようです。数千羽とはいきませんでした。それなりにタカの渡りの雰囲気を楽しめたと思います。

<認めた鳥> トビ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、サシバ、ハチクマ、キジバト、ハリオアマツバメ、アマツバメ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、カワガラス、エゾビタキ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、スズメ、カケス、ホシガラス、ハシブトガラス
合計30種

<参加者> 古賀嗣郎、渡邊成、浅野利幸、中野久夫、大矢篤、河内悠太郎、小玉文夫、井上正、宮下三禮、石渡成紀、川上貢、金子幸子、松下勝子、川越久枝、池田日出男、北原建郎、松本勝英 (幹事) 染谷迪夫、桑森亮
参加者19名

鳥 だ よ り

- 07.30 [相島] 材カ(1) 電柱上より森
に飛ぶ 小林孝夫・鈴木静治
- 08.01 [布佐平和台] チョウゲンホウ(2) 高圧
鉄塔上にとまり鳴く 鈴木静治
- 08.03 [北新田] アオアシキ(1) 鳴きながら
飛翔 中野久夫
- 08.03 [北新田] コシキリ(1) 2号排水路横草地
で 中野久夫
- 08.06 [久寺家] クサキ(1) 金谷水門で
中野久夫
- 08.13 [布佐平和台] チョウゲンホウ(2) 高圧
鉄塔上を鳴きながら飛ぶ 鈴木静治
- 08.13 [千間橋] ハブサ(1) 電柱上にとまる
鈴木静治
- 08.14 [浅間前] 材カ(1) 稲田を飛び、電
柱上にとまる 鈴木静治
- 08.14 [布佐平和台] チョウゲンホウ(3) 高圧
鉄塔上を飛ぶ 鈴木静治
- 08.15 [北新田] クサキ(1) 4号排水路で
中野久夫
- 08.15 [千間橋] チョウゲンホウ(1) 稲田上を
停飛しながら餌を狙う 鈴木静治
- 08.16 [東中新宿] ツミ(1) 上空を鳴きなが
ら通過 飯泉久美子
- 08.19 [布佐平和台] チョウゲンホウ(1) 塔上
でカスに威嚇され飛び去る 鈴木静治
- 08.19 [江蔵地] エズ(2) 木の枝にとまり
鳴く 鈴木静治
- 08.20 [北新田] クサキ(1) 4号排水路で
中野久夫
- 08.21 [中峠] トビ(1) 利根川上を飛ぶ
鈴木静治
- 08.23 [北新田] クサキ(3) 4号排水路で
中野久夫
- 08.28 [酒井根 6 丁目下田の森] ヒトトリ(1)
8:57、鳴きながら通過 飯泉仁
- 08.30 [北新田] ウグイス(1) 越流堤横のシ
原で囀り(終認) 中野久夫
- 09.01 [北新田] アオアシキ(1) 鳴きながら
飛翔 中野久夫
- 09.01 [北新田] クサキ(2) 4号排水路で
中野久夫治
- 09.01 [北新田] チョウゲンホウ(2) 電柱から
飛去 中野久夫
- 09.03 [北新田] クサキ(6) 4号排水路で
採餌 中野久夫
- 09.04 [北新田] エズ(2) 樹上で高鳴き
中野久夫
- 09.06 [泉] ツドリ sp(1) 9:57、林縁を移
動 飯泉仁
- 09.06 [大井新田先手賀沼] コガモ(1) 9:11、
遊歩道近くの水面を泳いで移動 飯泉仁
- 09.08 [北新田] コガモ(1) 越流堤池から飛
立ち 中野久夫
- 09.08 [北新田] トビ(2) 河川敷上物色飛
翔 中野久夫
- 09.09 [岡発戸新田] 材カ(1) 傾斜林の高
い木の頂にとまる 猪爪敏夫・谷山晴
男・鈴木静治・間野吉幸
- 09.10 [浅間前] サバ(1) 電柱上にとまる
鈴木静治
- 09.10 [千間橋] チョウゲンホウ(1) カスの攻撃
を受けるも、鉄塔中腹に止まる 鈴木静治
- 09.11 [江蔵地] エズ(3) 木の頂で鳴く
鈴木静治
- 09.12 [北新田] アオアシキ(1) 越流堤池か
ら飛立ち 中野久夫
- 09.14 [北新田] クサキ(7) 越流堤池から
飛立ち 中野久夫
- 09.15 [呼塚新田北柏ふるさと公園] エズ
(1) 15:21、高鳴き 飯泉仁
- 09.17 [北新田] 材カ(1) カスに絡まれ飛
去 中野久夫
- 09.17 [北新田] コガモ(38) 2号排水路で
中野久夫
- 09.17 [北新田] チョウゲンホウ(2) 電柱から
飛去 中野久夫
- 09.18 [光ヶ丘 広池学園] イビサ(2) 9:26、
鳴きながら桜の木の天辺に渡来 飯泉仁
- 09.19 [千間橋] チョウゲンホウ(2) 田の上を

飛び餌を狙う 鈴木静治
 09.20 [北新田] アアシギ* (1) 鳴きながら
 飛翔 中野久夫
 09.20 [北新田] ヌシギ* (6) 2号排水路と4
 号排水路で 中野久夫

ユウサギ、バン、ムナグロ、ヨシゴイ
 計 22 種
 合計 53 種

今回寄せられた鳥の全種名

<山野の鳥>

ウグイス、エゾビタキ、エナガ、オオタカ、
 オオヨシキリ、オナガ、カワセミ、カワ
 ヒワ、キジ、キジバト、コゲラ、コヨシキ
 リ、サシバ、シジュウカラ、スズメ、セツ
 カ、チョウゲンボウ、ツツドリ、ツバメ、
 ツミ、トビ、ハクセキレイ、ハシブトガラ
 ス、ハシボソガラス、ハヤブサ、ヒヨドリ、
 ホオジロ、ホトトギス、ムクドリ、メジロ、
 モズ 計 31 種

<水辺の鳥>

アオアシシギ、アオサギ、アマサギ、イソ
 シギ、オオバン、オナガガモ、カイツブリ、
 カルガモ、カワウ、クサシギ、ゴイサギ、
 コガモ、コサギ、コチドリ、コブハクチョ
 ウ、セグロカモメ、ダイサギ、タシギ、チ

<番外種>

アイガモ、アヒル、エジプトガン、カワラ
 バト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉久美子	1
飯泉仁	278
猪爪敏夫・谷山晴男・鈴木静治・間野吉幸	19
小林孝夫・鈴木静治	1
鈴木静治	70
染谷迪夫	11
谷山晴男・鈴木静治・間野吉幸	12
中野久夫	65
平岡考	3
総計	460

(浅井久)

金 御 岳 サ シ バ の 渡 り

小玉文夫

10月10日金御岳(金御岳)サシバ探鳥会が行われた。日本野鳥の会宮崎県支部主催だ。金御岳は日本でも有数のサシバの渡りの観察地である。宮崎県都城市の南に位置し、標高472m。北西に霧島連峰高千穂の峰を、西には桜島を臨むことができる。

金御岳のサシバの渡りに惹かれて毎年金御岳を訪れている。探鳥会前日の9日は朝から1日雨だったこともあり、探鳥会当日は多くのサシバが見れるだろうと期待し、10日、未だ暗いうち、5時に宮崎市を出発した。途中三股あたりから周辺は濃い霧に包まれ、都城に近づくと霧はさらに濃くなってきた。今日のサシバの出現を心配しつつ。金御岳の頂上に到着した時は、既に駐車場は満杯であった。県外からの多くの車が止まっている。頂上周辺の霧は薄かったが、上空は濃い雲に覆われ、また、都城市は雲海の下に沈んでいる。高千穂の峰は雲海の向こうに見ることが出来る。

8時に探鳥会が開催され、支部の方から、サシバについての説明、サシバの渡りのコースなどの解説が行われた。渡りのコースは関東 東海(伊良湖岬) 四国 九州のコースと新潟 長野(白樺峠) 淡路島 四国 九州のコースと2つのコースがあるそうである。金御岳ではサシバのカウントが9月から10月の間、宮崎県支部の有志によって毎年行われている。説明会の後、サシバの現れるのを待ちながら各自観察を行った。サシバの群れは、金御岳の北方から現れ、その群れが近づき金御岳の上空で鷹柱が出来る。すぐ近くで鷹柱を観察できる。鷹柱が出来ると歓声が上がリ、また、シャッター音

が響く。11 時には探鳥会恒例の鳥り合わせが行われ、サシバ以外に当日観察された鳥の紹介があった。その後、クイズ大会が行われた。賞品も用意されていた。

10 日のサシバのカウント数は 1164 羽であったという。この日は、上空の雲の晴れるのが遅く、また、都城盆地からの霧も流れてきて、サシバの出現は思いのほか少なかったのではなかろうか。

翌 11 日再び金御岳を訪れた。前日より多くのサシバの渡りを期待して。午前 7 時には到着、朝から快晴。暫らく待っていると、周辺のスギのこずえにサシバが姿を現しはじめた。前日到着し、近くの森に潜んでいたサシバ達であろう。その数も段々増えてくる。しかし、気温が上がらないためか、中々飛び立たない。そのうち、こずえから上空に舞い上がることなく、谷の方向へ流れ落ちていく。上昇気流が起こるのを待ちきれずに移動を開始したのであろう。8 時を過ぎた頃から、周辺の森からサシバが飛び立ち、鷹柱を形成し始めた。また、前方上空にはサシバの群れが現れ始める。最初はゴマ粒を散らしたような群れだが、だんだんと近づき、目の前で鷹柱を形成する。それは 100 羽から 200 羽の群れだ。十分上空に達すると、つぎつぎに、流れるように南下して行く。このような群れが幾度となくやってくる。突然びっくりするようなことが。目前で 100 羽以上のサシバが悠然と舞いながら鷹柱を形成していたが、何が起こったのか、それが一瞬の内に霧散した。ハヤブサだった。ハヤブサが羽を折りたたみ鷹柱めがけて急降下。初めて目にした光景だった。

この日は、ハプニングもありサシバの渡りに感動して帰路についた。10 日のカウント数は 3435 羽とのこと。

金御岳は上昇気流に恵まれ、目の前での鷹柱の出現、すぐ近くを通過するサシバの群れが観察できるなどサシバの観察地として恵まれている。

PACIFIC NORTHWEST への鳥追いの旅 (3)

田丸嘉昭

5 月 1 日 (土) クリス夫妻と私たちは、マイクが運転する車トヨタ プリウスで、1 - 205 と 1 - 5 で北へ向かい、コロンビア河東岸に位置するリッジフィールド NWR に到着。ここは、保護区全体が五つの地帯に区切られている。湖や湿地・湿原が大きな面積を占め、林や森林地区も点在する。中央部のリバー S ユニットで空を飛んだのはケアシノスリ ROUGH-LEGGED HAWK、近くの岩にとまったのがカリフォルニアカケス WESTERN SCRUB-JAY、オカヨシガモ GADWALL、ハシビロガモ、林の中の沼辺に現れたのがアライグマと、しばらくしてビーバーがゆっくりと泳ぐ。この保護区には 23 種の哺乳類が生息している。アカシマアジ、オオアオサギ、ウタスズメ、ミドリツバメ、キツタアメリカムシクイ等々。上空をヒメコンドル TURKEY VULTURE が飛ぶ。この鳥は初めて見たが、頭部と首が真っ赤で、下から見ると下雨覆の部分が逆三角形に銀色なので、識別しやすい。その他、ミサゴ、ハクトウワシ、アカオノスリ RED-TAILED HAWK(長く赤い尾で識別しやすい)、アメリカチョウゲンボウ AMERICAN KESTREL、オウサマタイランチョウ EASTERN KINGBIRD、アメリカコガラ BLACK-CAPPED CHICKADEE、カオグロアメリカムシクイ COMMON YELLOWTHROAT、チャガシラヒメドリ CHIPPING SPARROW、ヒメウタスズメ LINCOLN'S SPARROW、イスカ RED CROSSBILL などを観察。

イタリア料理店で昼食後、北のカーティール ユニットへ行く。ここは起伏が多く、沼や池が

点在するオレゴン白樺とダグラス ファー（モミ）を中心とした森の中のトレールを歩き、ノウサギが足元に現れた。森の中の鳥たちは、午前中と重複するものが多かった。この保護区では、7種のカナダガンの亜種が観察され、ハクトウワシが営巣する。

アメリカ政府が派遣した探検家ウィリアム クラーク大尉は、1805年の探検時にここでキャンプし、次のように書き残している。

「昨夜は寝たことは寝たが、夜間のほとんどの時間、小さな砂地でのハクチョウ、ガンコクガンやカモたちの鳴き声が続き、ほんの僅かな時間しか眠れなかった。その数は本当に多く、声の騒音は恐ろしいようだった。」

その他の三つのユニットには、トレールが設置されていずに立ち入りが不能。この情報は、<http://pacific.fws.gov/ridgefield> か <http://www.fws.gov/ridgefieldrefuges> から。

クリス家の裏庭は広く、ハチドリのフィーダーと鳥の餌台が置かれているせいもあり、何種類もの鳥たちがやってくる。夕食はタイ料理に出かける。ここでは旅行者小切手の受取りは断られた。

5月2日（日） この日は、昨日のリッジフィールドよりやや南のコロンビア河の西側にあたる河の中の大きな島、ソービーアイランド州立野生物地区(オレゴン州)に出向く。この島は、南半分が農耕地で、北半分はスタージョン湖と周囲の湿低地が保護区になっている。駐車場近くでカオグロアメリカムシクイが藪にとまり、近くの沼の中にアメリカオシ^{♂♀}が泳ぎ、アカシマアジも現れる。島内のカフェでサンドウィッチの昼食をとり、その後、河沿いに北上し、堤防脇に駐車すると、頭の上のほうから、鋭いキィキィという声が聞こえた。近くの電柱の上に巣作りをしているミサゴ二羽を見つけた。飛び上がって空中でダンスをするように舞うと、巣へ戻って交尾。その後、二羽は飛び去ったが、間もなくそれぞれが草のような塊の巣材を運んで戻ってきた。かなり大きな巣だと思ったが、外枠が完成し、現在は内装中ということか。カメラを構えていたので、18枚も写真がよく撮れた。さらに先へ進むと、もう一つの電柱の上に一羽のミサゴがとまっている。人が電柱の上に、ミサゴの巣の土台になるような横杭を設置し、ミサゴがその上に巣を構えるのだろう。このミサゴは、相手がいないのか、巣の構築は始まっていない様子。この日は、ここでハクトウワシ、アシボソハイタカ SHARP-SHINNED HAWK、アカオノスリが飛んだ。堤防の向こう側は砂地ビーチになっている。通路に“CLOTHING OPTIONAL”と表示されている。意味を聞くと、衣類は着けても着けなくてもよいとのこと。二日間、重いカメラとレンズ、三脚を担いでよく歩いたので、体にこたえてきた。

5月3日（月） この日は、クリス家から 10 キロほどコロンビア河上流の河沿いあるスタイガーウォールド レーク NWR。河沿いの部分に林がつながる、四つの湖沼がある見晴らしのよい湿原地だが、雨が降ったりやんだりのあいにくの天候。ここでは 300mm+テレコン+一脚を担いで 5 km のトレールを歩く。入口近くの池で、ホオジロガモとハシビロガモ。空にはオオタカ NORTHERN GOSHAWK。そのほかオビハシカイツブリ PIED-BILLED GREEBE、コブハクチョウ MUTE SWAN、オオホシハジロ CANVASBACK、ハシナガミソサザイ MARSH WREN、ハゴロモガラス、テリムクドリモドキなどを観察。車で走っていると、エルク ELK に注意の標識をよく見る。ここでは近くに一頭が現れた。上空を、ハイロチュウヒ NORTHERN HARRIER が飛ぶ。河沿いのトレールの近距離から仕切りの鉄線にとまるニシタイランチョウ WESTERN KINGBIRD の写真を何枚も撮る。私は、マイクが、二人の鳥キチと同じペースで二日半から三日を退屈せずに一緒に歩けるか疑問視していた。しかし、彼は自然観察を含めて、新しいものに興味があり、私と一緒に歩きながら、周囲の生物の写真を撮ったり、私が見つけた鳥の写真を撮ったりで、結構忙しそうにしながら私と同じペースで退屈した様子もなく、歩き続けていた。彼は、私が鳥を見つけ写真を撮ると、直ぐにどんどん先へ進み、一方 ML は、鳥を見つけると、グレチンと立ち止まり図鑑を

開いて、時間をかけて現場で鳥の判別をしていて、私との距離が離れていくと、二人の鳥キチを十分に観察もしていたのが面白かった。

一度家に帰り、マイクが私の車に乗り、グレチンの車に ML が乗り、近くで私の車に給油し、多少の現金を得るためにバンク オブ アメリカの支店に出向く。日本円の旅行者小切手は両替できなかったが、米ドル小切手 \$200 を現金化して出発。オレゴン側の I-84 を上流に向かい東に走り、最初の場所は、オレゴン州で 200 メートルと一番落差のあるマルトノマ一滝。雪解け水のせいか、水量も多い。滝壺の下流で、5 メートルほどの対岸にメキシコカワガラスが現れた。日本のものよりも、やや灰色がかった羽で、頭部がやや茶色。眼の白い膜を 2-3 秒間隔に下ろすので、その写真を何枚も撮る。しかし、目の膜をパチパチするのを見ているのは面白いが、写真で「白目」を見るのは、そう面白くない。次は、コロンビア河で最初に(1937 年)発電目的で建設されたボーンビル ダムの近くの**ボーンビル孵化場**。ここではチョウザメと紅マスの孵化が行われていて、3 メートルを越すチョウザメが水槽に飼われていた。

その後、天候状態は段々と悪化してきた。フードリバー市で州道 35 号線へ折れる。その周辺の斜面には果実栽培が盛んだ。南へ上り坂の続く道を進むにつれ、雨にアラレが混じるようになり、それが雪に変わり、道路に積もってきた。5 月に降雪とは驚き。下り坂でエンジンブレーキをかけると、後輪が横滑りすることに気がついたが、気をつけて先へ進む。日が暮れて闇が濃くなってくるが、この日の二組の夫婦の宿は、高度 3400m のマウント フードの中腹(高度 2000m ほど)にある 1936 - 37 年に建てられた由緒あるティンバーライン ロッジで、先はまだ長い。35 号線は、マウント フードの東側の麓を上りながら走り、やがて西へ向かい国道 26 号線に入り、ガバメントキャンプからロッジまで急な坂を登らなければならない。雪が 10cm ほど積もったロッジへの登り坂を細心の注意を払いながらゆっくりと上っていったが、ロッジまであと 1 キロほどで、私の車とグレチンの車が動けなくなった。ロッジに電話して救出を求めたが、できないということで、やむを得ず、予約をキャンセルして、慎重に運転しながら下山した。

私と ML は、ガバメントキャンプのマウントフード インに投宿し、マイクとグレチンは、宿の隣でティンバーライン ロッジが経営するレストランで私たちと一緒に食事をしてから、西へ向かう 26 号線でケーマスに戻るようになった。大変な一日だった。この周辺は、冬季にはスキー場になる場所だ。この日の運転距離は 384 キロ。(4 月 30 日とこの日の距離に誤りがあるかもしれない)。

5 月 4 日(火) 雪はやみ、宿の除雪車が、入口周辺の除雪をしている。部屋の窓の外の藪にハタオリドリ科の鳥たちが飛び交っている。国道はまだ除雪がされていないが、宿の人によると、この程度の積雪ならば、ゆっくりと進めば大丈夫とのこと。滑り止めをつけた車は、安全な場所で追いぬきをかけるから心配せずにこちらが安全運転を心がければよいとのこと。国道 26 号線は、マウント フードを背に、南に下り坂が続く。私は、他の車の車輪跡をたどりながらセカンドギアで、時速 30 キロ以下で慎重に進んだ。坂道を下っていくと、道路の雪が段々少なくなっていくのが分かり、1 時間半も進むと、トラックの運転手が、チェーンをはずしているのを見かけるようになった。道路は濡れているが、雪が見えなくなる頃から、スピードを徐々に上げはじめる。

マウント フードの山麓を離れ、平原地帯に入るところから天候は回復してきた。カスケード山脈の東側で森林の少ない乾燥地帯となる。デスチューツ河が流れるウォーム スプリングスの町まで、急な曲がりくねった下り坂が続く、河を渡り対岸は、今度は急の登り坂が続く。上りきったところから、再び乾燥した平原となる。マドラスの町で、国道 97 号線に入り、町のスーパーで、昼食を求めてから、州道 126 号線で東へ向かい、ブラインビルで 27 号線を南下し、河沿いの細く曲がりくねった上り坂を登り、**ブラインビル貯水湖 SP** に向かう。ここは、東側にあるオチョコ国立森林区から流れ出る川をせきとめた人造湖で、主とし

てボート遊びを目的としている。湖畔の立ち木の上に、テリムクドリモドキ♂♀がいた。まるで別の鳥のように、♂は黒、♀は茶色だ。先に進み斜面を下っていくと、山間の牧草地のような地帯に入ったが、あまり牛などは見かけない。藪の中を飛ぶカササギ BLACK-BILLED MAGPIE を見る。この先は未舗装だが、交通量がほとんどないので、埃はさほど気にかからない。アメリカオオモズ LOGGERHEAD SHRIKE が電線にとまっている。あまり変化のない道を進み、国道 20 号線を西に向かい、デスチューツ河が町中を流れる、この地域では大きなベンド市に入る。この河沿いの公園の隣に、二泊するベンド リバーサイド モテルに到着。今日の運転距離は 304 キロ。夜食は、歩いていける距離にある地元の醸造元が経営するパブでとる。寒い。(次号に続く)

手賀沼流域フォーラム親子探鳥会

期 日 11 月 21 日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子市役所 午前 9 時
 解 散 正午頃
 案 内 一般市民を対象にした当会会員が山野と水辺の鳥を案内する、親子探鳥会です。マイクロバスで手賀の丘公園に移動、同公園と手賀沼を探鳥します。
 定 員 20 名 参加費 無料
 申 込 間野まで Tel/Fax : 04 - 7185 - 0538

会 員 便 り (ab-yacho より)

【北新田】

- 北新田の稲だいが黄色に色づき、稲刈りの始まるのも間近です。
- ・オオヨシキリの鳴き声は地声だけで、囀りは聞かれなくなりました。
 - ・最近、越流堤付近にいるカワラヒワの群れで、白化カワラヒワが見られています。(2010.08.15 中野久夫)
 - ・北新田の稲刈りはほとんど終わり、あと 2 枚残すだけになりました。2 号排水路の堰止めも 9 月 10 日で終わり、水位が下がり水路の中にサギやシギが入るようになりました。
 - ・ウグイスの囀りは 9 月 1 日、セッカの囀りは 9 月 10 日以降聞かれなくなりました。
 - ・コガモの群れは青山水門近くの 2 号排水路にいました。今秋のコガモの初認は 9 月 8 日の 1 羽でした。(2010.09.17 中野久夫)
 - ・ノビタキは 3 号排水路の土手にいました。今年利根川堤防付近では草刈りが 9 月 20 日頃行われたためノビタキは全く見られませんでした。3 号排水路の土手は草が刈られずに残っていたため、連日数羽のノビタキが見られてきました。しかし渡りもそろそろ終わりで見られなくなるのも間近でしょう。
 - ・9 月 10 日、セイタカシギが 1 羽耕田の水たまりで採餌していました。いたのは 1 日だけでした。(2010.10.16 中野久夫)

【手賀沼】

昨日は雨で定例会が中止でしたが、今日は日差しが強く暑い中、手賀沼の様子を見ようと下沼の片山のお立ち台から染井入落しまで歩きました。カモ類はカルガモだけで、全く姿を見ませんでした。その中で白っぽいカイツブリが 1 羽、ハジロカイツブリかと思いましたが、帰って図鑑を確認するとミミカイツブリのようです。ユリカモメも少しながら杭上にいるのを確認しました。モズの高鳴きはあちこちで聞かれ、染井入新田の田圃の畦にはノビタキも見られました。この日の早朝ウォーキングの際に、岡発戸手賀沼遊歩道(釣堀付近)でヨシゴイが飛ぶのを見ました。この時期にもまだいるのかと驚きでした。(2010.10.11 桑森亮)

9月幹事会報告

日 時 9月12日(日) 13:30~16:30

場 所 アビスタ 2F 和室

1. JBFの行事と担当の確認について

ブース1の展示パネルはA1版6枚、1実施事項に塗り絵とクイズを追加
定点バードウォッチングは六角幹事がリーダーに、吉田幹事が担当追加。
船上バードウォッチング担当に浅井幹事を追加。

2. 創立40周年記念行事について

準備委員会報告 田中幹事が検討結果を資料に沿って報告。了承された。
実行委員会案について 田中幹事は資料に沿って提案し大綱は了承された。
記念誌データグループと記念誌一般向けグループは速やかにスタートの準備をする。

3. 会報217号の記載記事について

記載記事は原案通り了承され、担当者も決定。

4. 報告事項

JBFの報告 間野会長が今までの経過を資料に沿って説明。

5. その他

10月15日 柏市立豊小学校の探鳥指導は間野、北原、染谷、松本、六角、猪爪、木村

10月29日 長寿大学の探鳥指導は、染谷、木村、松本、猪爪、北原、佐々木、間野

第20回手賀沼ふれあい清掃

手賀沼ふれあい清掃に参加しましょう!

期 日 12月5日(日) 午前9時から11時30分 荒天の場合12月12日(日)

集合場所 手賀沼公園多目的広場 8時45分集合

清掃開始 9時から「ふるさとコース」(手賀沼公園~根戸新田)

清掃終了 11時

閉会挨拶・参加記念品の配布 11時15分

解 散 11時30分

担 当 事務局

持 参 手袋、火バサミ等

今年は我孫子野鳥を守る会が、「手賀沼ふれあい清掃実行委員長」です。大勢の方参加のを期待します。

ほーほーどり No.217 (2010年11~12月号)

発 行 2010年11月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel: 04 7182 3972

U R L <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会 費 年会費2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料)